

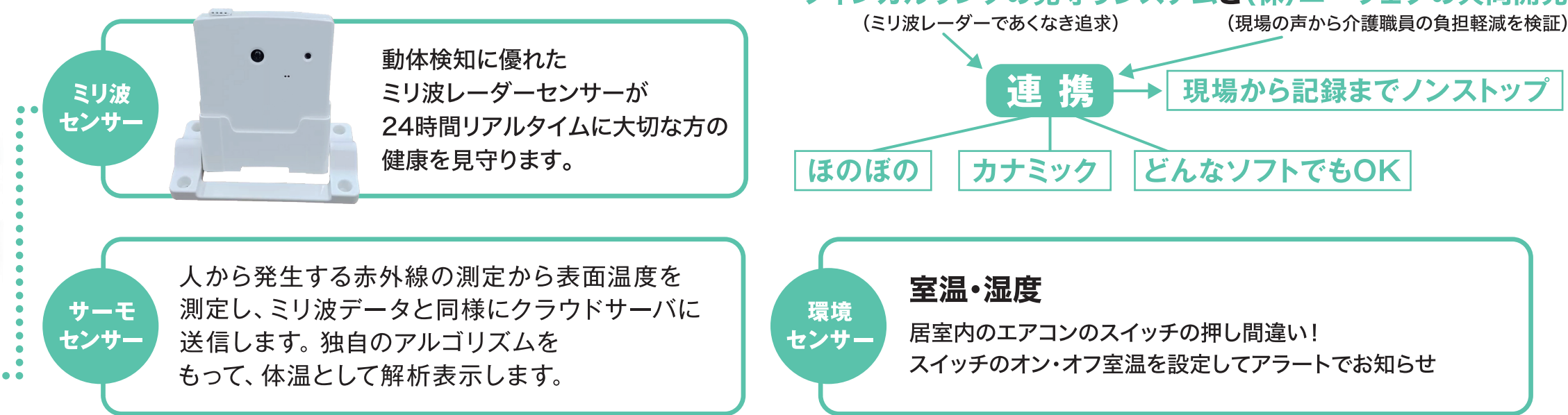
ヘルスケアというインフラを すべての人へ、街へ

福祉現場の課題に「ミリ波技術」で挑みます。

内閣府の調べでは日本の総人口が減少する中で
高齢化率は上昇を続け、
2036年には3人に1人が高齢者になると予想されています。
また65歳以上の一人暮らしの方は男女ともに増加傾向にあり、
2015年には男性約192万人、女性約400万人となり、
独居生活者の増加にともなって
自身の病気予防や健康増進への意識の高まり、
離れて暮らす家族の不安も大きくなってきています。
一方、介護や医療、保育の現場では、
人材が不足するなど深刻化の一途を辿っています。
そうした社会背景からも、少数の管理者で対応ができるよう
複数人の健康状態を常時管理する情報システムが
社会に求められるようになってきています。

この数年はさらにさまざまな感染症対策などの課題から
非接触型での健康管理システムも求められてきています。
フィンガルリンク株式会社が独自開発をした
ミリ波を使用した非接触バイタル測定センサーをベースに
ミリ波レーダー生体情報検出システムは構築されています。
日々のバイタルや睡眠データを取得することで
異変を素早く察知し、医療機関などへのスムーズな相談を可能にします。
ヘルスケアへの多くの思いが詰まった
フィンガルリンク株式会社の供給するサービスを
ぜひご利用ください。

介護施設の「見守りシステム」



Q&A

あんなことこんなことQ&A

排尿・排泄・嘔吐について

- Q.** 今迄『勘と経験』に頼ってオムツ交換をしていましたが、ミリ波センサーがどう認識するのですか？
- A.** ミリ波は金属、水以外の素材は透過することができますので、布団、パジャマ、オムツを透過して排尿を検知します。排尿、排泄、嘔吐については体の位置情報で判断して通知します。汗で排尿、排泄、嘔吐と検知されることはありません。

介護ソフトとの連携について

- Q.** 介護ソフトと連携していますか？
- A.** カナミック・ほのぼの他と連携しています。見守りソフトと介護ソフトとの連携により心拍、呼吸、体温、睡眠情報、室温、湿度、起き上がり、離床、排尿、排泄、嘔吐の記録が自動入力出来ます。『Bluetooth対応型』血圧計、SPO2測定器の利用で介護ソフトと連動しバイタル記録が自動入力されるので、介護職員のパソコン入力の負担が軽減されます。

設置位置とネット通信について

- Q.** 設置は壁ですか天井ですか？
- A.** 設置場所は天井です。壁の取付けも可能ですが、壁に設置すると起き上がりの検知ができません。
- Q.** センサー機器のネット通信は必要ですか？
- A.** 必要です。有線LANで接続する場合は、機器本体に接続します。Wi-Fiで接続する場合は、WPSボタンでの連携が必要になります。WPSボタンがない場合は、パソコンにWi-Fi接続用のアプリをインストールし、パソコンと機器本体をLANケーブルで接続して設定します。

- Q.** 在宅で使用する際(離れた両親と遠隔での見守り、二世帯住宅の1階と2階と違うフロアーでの見守り)の通信について
- A.** SIMカードを、ミリ波センサーに挿入してデータ通信を行います。

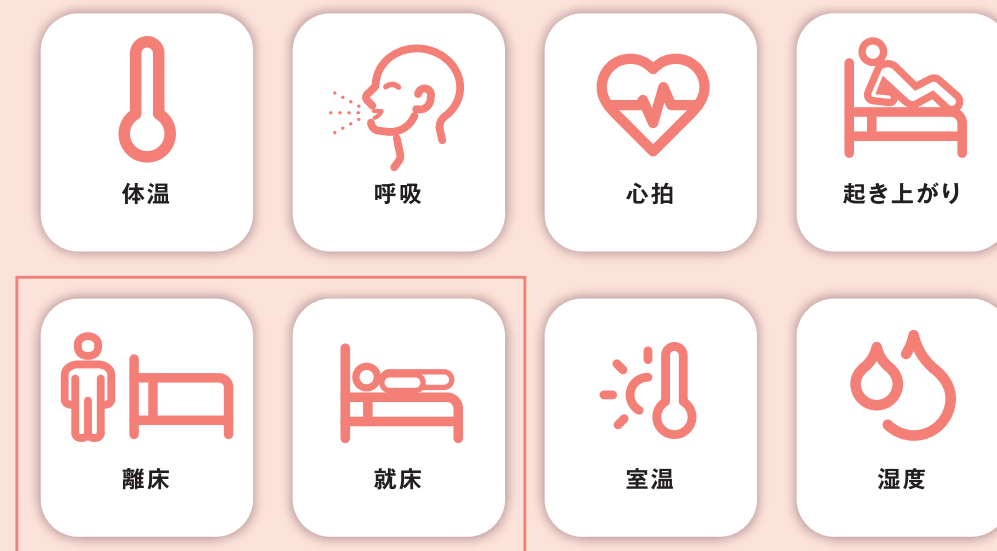
- Q.** 費用について
- A.** Wi-Fi環境が無ければ、別途工事が必要です。設置費用がかかります。(自社にて設置も可能ですが業者へ依頼することをお勧めします。)

導入施設の管理画面



必要に応じて巡回

現行機能一覧



※点滴中は「離床」「起き上がり」機能を停止してご利用ください。またサーモセンサーは西日や熱い飲み物、携帯電話等の高温を検知してアラートを発することがありますが、その際はご確認をお願いします。

近日中に導入!

